

2014年1月度研究交流例会開催の件

1 月度研究交流例会を下記の要領にて開催いたします。今回は当学会会員の李昭娟氏（創価大学大学院博士後期課程）と田中信弘氏（杏林大学教授）による報告を予定しております。各位の積極的なご参加を期待します。

記

1) 日 時 平成 26 (2014) 年 1 月 11 日 (土) 午後 14 時より午後 16 時 30 分

2) 場 所 経営倫理実践研究センター (BERC) [地図→] セミナー室

3) テーマおよび講演者

①14 時 00 分～15 時 00 分

「韓国における国内機関投資家の議決権行使の行動と政府の対応
-国民年金基金の株式所有比率の増大と議決権行使の強化についての考察-」

講演者：李 昭娟 氏（当学会会員 創価大学大学院博士後期課程）

②15 時 10 分～16 時 30 分

「ソフトローとしての CSR 国際規格の有効性 -エンフォースメントの類型をふまえて-」

講演者：田中 信弘 氏（当学会会員・杏林大学教授）

講演概要

* 講演①：李 昭娟（い そよん）氏


韓国の株式市場における国内機関投資家の課題は多く残っている。このような中で最近、韓国の国内機関投資家の株式所有比率の推移と議決権行使の変化を巡って注目が集まっているのが、国民年金基金の株式投資に占める割合の拡大である。

本研究は、国民年金基金の議決権行使といった行動がコーポレート・ガバナンスにおける国内機関投資家の役割にどういった影響を与えているのかについて考察する。また、国民年金基金の議決権行使を巡る政府と企業側の各々の意見が対立し、活発な議論が行われている。それについて若干の検討をする。

* 講演②：田中 信弘（たなか のぶひろ）氏

現在、EU では大企業に対して、国連グローバルコンパクト、OECD 多国籍企業ガイドライン、ISO26000 のうち一つにコミットしていくことが推奨されており、ソフトローとしての CSR 国際規格がその影響力を高めている。本研究では近年の CSR 国際規格の拡がり把握し、エンフォースメントの類型（①認証型、②内在型、③ガイドライン型）をふまえた上で、上記 3 規格の特性とエンフォースメントの有効性を検討する。業側の情報開示の状況と開示結果に対するエンゲージメントの実態を把握することから、CSR 報告のガバナンス効果を解明していくことが当面の研究課題である。

4) 参加費 正会員：2,000 円 学生：1,000 円（当日、例会会場にて申し受けます）

5) その他 ご出欠の確認を致したく、参加申込用紙（ダウンロード→）に必要事項をご記入の上、明年 1 月 8 日(水)迄に Fax または [E-mail](mailto:berc@berc.or.jp) にてご返信ください。